

決定版・SL 大樹撮影地ガイド

Text & photo by 火種

sunlight.taiju@gmail.com

https://linktr.ee/shimo_photograph

はじめに

この撮影地ガイドは、作者が実際に訪れて撮影した写真および独断と偏見でまとめたものです。基本的に知り合い向けですが第三者に共有して頂いても構いません。そのためマイナーな撮影地や公開したくない撮影地は掲載しておりませんので予めご了承ください。

また列車番号や運転時刻は東武鉄道の SL 大樹公式サイト(<https://www.tobu.co.jp/sl>)に準拠します。

掲載内容はアングル名称、撮影対象、撮影環境です。駅間は書かないのでお察しください。なお名称に関しては他の撮影地と差別化するための便宜的なものです。一般的でない場合もありますのでご了承ください。

下今市入換



SL 運行に伴って開設された東武鉄道下今市機関区。SL 大樹の始まりと終わりの場所。主に在庫/入庫と発着前後の入換を撮影する。定番とされるのは在庫と発車前に入換進行のシーンで、左から順に駅構内の SL 広場、ベイシア駐車場、踏切の 3ヶ所。SL は海側の 1 番庫と山側の 3 番庫に収容され、SL 広場からは 1 番在庫が、ベイシア駐車場からは 3 番在庫が撮りやすい。事前に運用と収容位置を確認のうえ撮影に臨みたい。また入換は駅の外から撮る方がよく、1 号発車前に入換は全行程の中で最もドレンを排出する。いずれのアングルも望遠レンズ必須で、3 段以上の脚立があると便利。

在庫時刻は下り発車の約 40 分前、入換開始は発車 15 分前と到着 10 分後、在庫は到着 25 分後が目安だが、本線を走る列車の時刻によって前後する。またベイシアは 20 時閉店なので 10 号入換を撮る際はベイシア駐車場を使わない方がいい。

倉ヶ崎ストレート(陸橋俯瞰)



会津西街道バイパスの陸橋から上り列車を見下ろす構図。鬼怒川線沿いには線路沿いが開けた空間が意外と少なく、このようなアングルは希少。春の水鏡、秋の稲穂、冬の雪原がV。午前中ないし曇りの日を推奨するが、逆光で田んぼに蒸機と車掌車の影法師が現れる夕方もよさそう。背景に住宅地があるので面横処理は難しい。また構図の手前に電線が走っており、その間をかわして構える形になるのでアングルの自由度は若干低く、レンズも広角は使えずおおよそ70mm~120mmが適正。徒歩でのアクセスは駅から

遠く、大桑からも大谷向からも20分以上かかる。バスが通っているが本数が少なくあてにできない。自動車は陸橋の側道に4台ほど駐車可能。

倉ヶ崎ストレート(3.1キロポスト)



青空バックとギラリとエロ光と田園地帯の撮影地。道床が石垣で固められているので石垣とか石段とか呼ばれる事も多い。主に午後の上り(写真左)が撮影対象で、北側の踏切から未舗装路を伝ってアプローチする。この未舗装路は私道のため、近くに地主が居たら必ず一声かけてから入って欲しい。鉄に対しては友好的な方なので基本的に受け入れてくれる。ゴミ捨てや踏み荒らしなど迷惑行為は厳に慎むこと。

立ち位置はかなり広く、寄って編成でも離れて風景でも撮れるが、架線柱と背景をうまく処理する必要がある。編成で撮るなら寄って105mm前後が適正。6号がメインターゲットとなり、通年撮影可能。写真右は午後の下りで、7号以降ではギラリを期待できる。下今市方面に上り勾配なので、煙が出るのは上り列車。先述の陸橋に見下ろされている開けた空間のため、季節ごとの風景が楽しめる好ロケーション。作例はあくまで参考程度に色々な撮り方にチャレンジしてみて欲しい。

徒歩アクセスは大桑駅からの方が近く、自動車は踏切付近に駐車可能。ただし駐車位置によってはケツ横に出てきてしまうので自滅しないように(写真左が失敗例)。

倉ヶ崎ストレート(SL 花畑)



地元のボランティア団体によって整備されている公園であり、東武鬼怒川線随一の優良撮影地。架線柱を建て替えて午後側に開けた片側ポール区間となった事で爆発的に人気が高まり、今ではすっかり名所となっている。メインターゲットは午後の上りで、特に6号が狙い目。西側に杉林があるため11月中旬から1ヶ月ほどは影落ちて撮影不向きだが、曇りであればこの限りではない。汽笛を必ず鳴らすし煙も結構出る場所なのでバリ晴れ爆煙で優勝する事もある。冬季は西から吹き下ろす風が大敵で、これによって阻まれたVは数知れない。根気よく通って最高の1枚を狙おう。

編成で撮る場合は150mmを目安に構えると収まりがよく(写真左上)、なおかつ2段から3段の脚立があると望ましい。築山から狙うハイアングルの立ち位置(写真右上)は煙と編成を両立てでき、110mm前後が最適。立ち位置は少し狭く、横並びで10人程度。北側に行けば下り列車も撮影可能(写真左下)で、こちらは105mm前後で編成を撮るか、広角ローアングルで花と絡めるのが正攻法。電車列車の場合はSLの立ち位置よりも後退してかぶりつき135mm構図で撮ると良い(写真右下)。キロポストをかわすために最低3段が必要だが、6両編成の特急電車はバランスよく収まる。ここで紹介したのは王道の撮り方で、風景やスナップなら無限にアレンジできる。困ったらここに行けば何かしらの収穫があるといっても過言ではない。

アクセスは大桑駅から南に徒歩15分、自動車は専用駐車場に最大17台。重連やイルミネーションなどの大ネタ時は臨時駐車場が開放され、基本的にあぶれる事なく止められる。また現場から徒歩圏内に食堂とコンビニがあり、食堂に注文すれば出前を届けてくれる。

倉ヶ崎ストレート(3.8 キロポスト)



SL 花畑から 200m 北寄りにある撮影地。定番の影に隠れて地味な存在だが、両側ポールかつ田んぼ構図で定番とは全く違う印象を受ける。同じ田んぼ脇の両側ポールである 3.1 キロポストとは森バックになるという点で差別化され、背景の処理に悩む必要がない。そのためアングルの自由度はかなり高く、風景やスナップにも向いている。花畑の定番構図で上り列車の背景に来ている杉林がこちらでは下り列車の背景になり、曇りアングルとして優秀。SL 列車は 80mm ぐらいで撮るとちょうどいい。また、上り列車は 3.1 キロポスト同様青空バックとなり、高原山の全景を入れて撮影できる。冬季の影落ち期間が定番より短いため、もしかしたらここも 6 号のオールシーズン撮影地かもしれない(未検証)。

大桑駅周辺



下り列車の駅入線を踏切からド正面でぶち抜く面縦と駅北の蓮池が定番として知られている。2022 年改正までは 4 号と 5 号の交換駅だったため賑わったが交換駅が新高徳になって以降は撮影者がかなり減った。王道の構図がないため頭を使う撮影地。周囲は学校もある住宅地で、狭い道が入り組んでいるが所々に駐車可能なスペースがある。蓮池の北側には紫陽花アングルがあり、またその先がカーブして上りの面縦も撮れる。咲く花が多彩で冬季はイルミネーションも設置されるので割と色々撮れるが、最適シーズンは蓮の最盛期である 8 月上旬ごろだろうか。倉ヶ崎にはない毛色のスナップ写真が撮りたい人におすすめの界限。ほとんどのアングルは曇天向き。

大桑ストレート(面縦)



SL 大樹で最もポピュラーなド正面構図。上り勾配が真っ直ぐ長く続くが、この区間の煙の量には当たり外れがあるうえに並走する会津西街道旧道に車が写り込んでしまう事も多いため優勝へのハードルがかなり高い隠れた鬼門。大桑駅北のカーブにある踏切が立ち位置で、道もかなり狭く(車が通る時は三脚を畳んで道を譲らないと通過できないレベル)キャパシティは頑張っても 5 人程度。またレンズも最低 300mm は必要。4 号と 6 号が撮影対象で、冬季の 6 号ではエロ光爆煙を狙いたい。

大桑駅からほど近いので徒歩鉄に優しいが、自動車は踏切から少し離れた場所に 3 台程度しか止められない。近くに墓地と耕作地があり、地元民の往来が意外とあるので注意が必要。複数人で構える時はしっかり雑壇を組んで省スペースを心掛けるべし。

大桑ストレート(編成)



面縦の立ち位置から数十メートル鬼怒川温泉寄りには編成写真を撮れる場所もある。街道と並走しているため線路寄りか歩道上で構える事になるが、バランス良く収まるのは歩道上。順光時間帯は時期によって前後するが、13 時過ぎに通過する 4 号は通年バリ順で撮影可能。後述する砥川橋梁は先頭車両しか写らないため午後早めの編成撮影地として鬼怒川線で唯一のポジションを誇り、DL 運用のある日は重宝する。作例のスパンが最も綺麗に写り、レンズは 75mm 前後、また 3 段前後の脚立を推奨。

砥川橋梁(上り定番)



鬼怒川の支流板穴川にかかる鉄橋を切り取る昼間の定番撮影地。上り列車に対して上り勾配が始まる場所で煙は期待でき、11 時から 14 時頃に順光となるため 2 号と 4 号の晴れショバとして重宝する。見上げる構図のため脚立が欲しくなるが、立ち位置は砂利と段差で不安定なため伸縮脚立がないと厳しい。線路寄り気味のラインで 3 ノビか 4 ノビを使って 50mm~70mm が適正。カメラを割と上に振らないと下スカで煙も切れるので上下比と面横処理が

肝心。大桑から北上して会津西街道旧道が線路を跨ぐ手前の脇道に入ってすぐの空間に駐車し、2~3 分歩くと着く。冬場は日陰に雪が残るのでスリップ注意。

砥川橋梁(ミニ鉄橋)



砥川橋のすぐ南に小さな鉄橋があり、橋の袂の植物と絡めた風景写真を手軽に撮れる。定番の目と鼻の先にあるため 2 号や 4 号のついでに下り列車をここで撮る SL 翁が結構いる。主なシーズンは梅、新緑、水仙、紅葉(作例は 11 月中旬の 1 号)。鉄橋自体が短いため切り位置が非常に狭く、サイドから広角で撮るためシャッターチャンスは一瞬。木々の色づき具合と撮り方によって多彩な V を狙えそうなので知っておいて損はない。

砥川橋梁(河原)



定番の立ち位置から更に奥に進むと河原に下りる事が出来、そこから青空バックのサイドアングルが得られる。ギリ側とシルエット側の 2 パターンを撮影可能で、それぞれ立ち位置を変えて上下とも撮れる。作例はいずれも 7 号で、50mm レンズを使用(D500 のため換算 75mm)。とりわけ冬季のシルエット側が SL 翁に人気で、先輪抜き、ヘッドマーク反射、夕焼け、マジックアワーと逆光ならではの V を撮れる鬼怒川線では唯一無二の優良撮影地。何度も通って多彩な表情を収めたい。

栗原切通し



構図がイマイチだけど爆煙とドレンを拝めるといだけの理由で SL 翁に大人気の場所。ローソン日光栗原店のすぐ南の生活道路が立ち位置で、キャパシティは 20 人ほどいけそうだが架線柱の処理がかなり面倒で、綺麗に抜ける場所は限られる。一番前進して S 字を見渡すか(写真左)、後退してアウトカーブでドレンを目一杯入れるか(写真右)だと思う。いずれも望遠レンズ。線路が立ち位置より低いので、目線をなるべく下げて撮りたい。順光時間帯は無く(夏光線なら部分的に順光)、下り列車対象。

鬼怒川橋梁(面縦)



新高徳駅からほど近い、午前順光になる数少ない撮影地。SLは1号と3号が撮影対象で、夏光線の1号のみ順光を得られる。栗原の急勾配を登り切った先にあるので、天候や乗務員によっては鬼怒川を渡るまでに完全燃焼して煙が出ない事があり、ここをしっかりと黒煙で通過するとその日の煙の当たり外れが大体わかるというジンクスがある。レンズは300mm以上が必須で、立ち位置は結構広い。人によって好みのアングルが異なるが、前進ローアンで350mm弱が最も綺麗な撮り方だと思う(みんな後退して構えているので、ネタカンの時に1人だけ前進していたら9割方私です)。通過速度はかなり遅く、シャッタースピード500分の1でもブレない。対岸の踏切が閉まってから切り位置を通過するまで3分以上かかる。自動車は立ち位置のすぐ後ろの踏切道に置けるが、中岩河川敷の駐車場まで下りるが無難。

鬼怒川橋梁(中岩河川敷)



鬼怒川橋梁を真横から見渡せる風景撮影地。駅から徒歩10分圏内とは思えない大自然感を味わう事ができ、先述の砥川シルエットのように天候や時間帯によって様々な表情を見せてくれる(水鏡を撮れる事もある)。1号の逆光シルエットと側面まで光が回る7号がおすすめ。曇りの日は空爆発となり非推奨。レンズも広角から望遠まで使用可能で、アングルの自由度はかなり高い。入水鉄も可能だが、岸近くから落ち込みがあるので普通に河原で撮りましょう。

病院ストレート



倉ヶ崎を除くと唯一のまとまった片側ポール区間。背景と線形を考えると下り列車向きだが、ガードレールをかわすために最低3段は必要だし、そもそもガードレールが目立つので敢えて行くようなところではない。すぐ近くに独協医大日光医療センターがあり、患者に配慮して煙を控え目にしてはいたが、2023年に病院が移転したため現在は気持ち多めに出してくれると思われる。夏光線なら7号を順光で撮れる。新高徳駅のすぐ北側。

中岩発電所



病院の前を通過してカーブを曲がった先にある踏切で下り列車を撮れる。立ち位置のすぐ先が東電の中岩発電所の敷地内のため実質行き止まり。面縦撮影地の多い鬼怒川線でも背景が綺麗なアングルは意外と少なく、曇りの日に下りを無難に撮りたいときはココを推奨。割と斜度もあって確実に力行するため煙も期待できる。真正面を向く瞬間が切り位置で、250mm 程度で抜ける。手前の架線柱に信号機が生えているのでなるべくローアングルで撮りたい。昼過ぎまで逆光のため基本的に曇りアングルだが、7 号の時間帯なら比較的マシな光線。踏切が狭いのでキャパシティは 5 人程度が限界。すぐ振り返ってケツ撃ちしても良いアングルが得られる。自動車は踏切のすぐ手前まで突っ込む(ニト村止め)か、200m ほど北にあるファミリーマート日光高德店に止める。

9 キロポスト



構図がイマイチだけど爆煙を拝めるといだけの理由で SL 爺に大人気の場所パート 2。定番(写真左)は栗原よりは編成との両立もある程度できるが、晴れると光線状態は劣悪で完全曇りアングル。現場の地名は小佐越なので小佐越 S という呼称もあるが、駅からやや遠いし(900m)、S 字というよりアウトカーブのアングル。立ち位置には歩道が整備されて構えやすく、煙を入れる事を考えるとアイレベルよりは少し目線を上げたい。煙が出るから辛うじて V だが、SL 以外の被写体はただの結膜炎となるため非推奨。レンズは 70mm 強。車は立ち位置の対岸に駐車できるが、みんな下手すぎてスペースを有効活用出来ていない。

また定番より直線距離にして 150m ほど北には左頭で撮れる場所がある。こちらは定番とは対照的に見上げる構図のため 3 段以上の脚立が必須。画角の右上に空白があり爆煙で来ないと空爆発になるが、最近ここで爆煙になる事が少なく賞味期限切れかもしれない。定番に歩道が整備される前までは面横森で人気だったが、現在はコンクリート壁丸出しで味気ない。行き止まりの道路が立ち位置で、レンズは 85mm ほど。行き止まりの道の入り口に 4 台ほど置けるスペースがあり、何なら立ち位置に車を止めて屋根ハイアンや荷台ハイアンしても良い。

陸橋下



追っかけ撮影の際に東武ワールドスクウェアの停車で抜いて撮る場所と言えばココ。陸橋の下に除雪車を留置する空間があり、日中は稼働しないため撮影地として使える。2枚の写真は立ち位置が前進(左)か後退(右)かの違いで、前進した方が架線柱の処理が簡単。後退は架線柱についている標識を隠す必要があるため立ち位置選択が重要。駅発車直後のため力行するが、煙の量には当たり外れがある。レンズはいずれも200mm以上で脚立は不要。立ち位置は広いが車は5台ほどしか止められない。

ツルハ裏



陸橋下のカーブを抜けて鬼怒立岩信に至るまでの単線の直線区間。どういう呼び名が良いかわからないので、会津西街道沿いにあるツルハドラッグの裏手ぐらいの位置にあるという事で命名。下り列車(写真左)は早朝順光で、3段脚立に乗って柵をかわして標準レンズで撮影する。上り列車(写真右)は午前中が順光だが、2号の時間帯は面トップ気味。上り立ち位置付近の地主が結構カツいので駐車とポジションには若干要注意。いずれも面横森のため曇りの日の方が向いているかもしれない。撮影場所に困った時にとりあえず撮っておく的な場所で、追っかけ撮影のコマ数稼ぎには向いている。

幹線道路から外れた長閑な空間で、周囲には花畑や水田があり、工夫次第では風景写真でVを撮れる。周辺は道が狭いものの所々に駐車可能な空間がある。各スペースに1~2台が目安で、多少遠くても安心して駐車できる場所に止めた方が無難。徒歩アクセスの場合は鬼怒川温泉駅から徒歩20分ほど。文字通りツルハドラッグが近く、なんならその駐車場から適当に撮れるので飲み食いには困らない。

鬼怒立岩信



東武鬼怒川線内で唯一の複線区間で、それをかぶりつきで撮れる優秀な編成撮影地。午後遅めの上りが順光で、SL 大樹の場合は 6 号と 8 号が撮影対象。もっぱら 6 号の撮影地だが、日没 18 時以降の時期だけ日が当たりエロ光となる 8 号が隠れ本命。土地柄か曇る事が多いので全上り列車の追っかけ 1 発目の撮影地としても使える。線路沿いに道が通っているので車も止められるし立ち位置も何ヶ所か存在するが、最も良いのは踏切から見て鬼怒川温泉方面に向かって 2 本目の架線柱より更に少し前進したあたりで、135mm で理想的なバランスの編成写真を撮影可能。柵に張り付くよりは用水路のラインから 2 段ぐらいの高さで抜くのがベター。冬(写真右)になると背景の林に 1 本だけ混じっている広葉樹が枯れるので、それを機関車で隠すために更に前進かつ線路寄りでの 135mm となるポジショニングが良い。また日の短い時期は切り位置で機関車の後部に影落ちするため別のスパンで撮った方が良い。そして DL 大樹は SL 大樹より短いので、右の作例より更に前進して 110mm 弱で撮ると良い。せつかく車を何台も止められるので、追っかけしない人はなるべく奥まで入れて欲しいし、原則バックで入って欲しい。下り勾配のため無煙で来るのが SL 撮影における決定的な欠陥だが、まともに編成を抜ける撮影地が少ない鬼怒川線内では比較的パニリやすい。無駄に早くから構えるアングルキラーを牽制しつつ同業者間で協力してうまく統制を取って雛壇を組めると理想的。

鬼怒川温泉



SL 大樹の終着駅で、駅前の転車台で転回する SL をスナップ撮影できる。下今市と異なり改札外に転車台があるため人の集まり方は圧倒的に激しい。そのため転車台からある程度離れて人垣の向こうに SL を配置する「人気者構図」が撮れる。ヘッドマークが人垣で隠れないように 3 段前後の脚立を持って右往左往しながらシャッターを切りまくるのが正攻法。途中 3 回ほど回転が止まって汽笛を鳴らすパフォーマンスがあるためテキパキ動けば転回中ずっと追いかけられる。鬼怒太像やアテンダントと絡めて撮る事も出来る。一日中追い回せる大樹の中で一番カット数を割くのがこの鬼怒川温泉の転回と下今市入換だったりする。転回が終わったら側線に留置されるので機関車を観察したり乗務員や同業者と会話して復路に備えよう。

カミイマストレート



平日を中心に運転されているトニコ発着「SL 大樹ふたら」の編成撮影地。どこからでも撮れそうでどこからもまともに撮れない区間だが、日光だいや川公園から少し下今市寄りの空間は抜けが良く障害物もないスパンが続くため、晴れショバ皆無のハズレ運用というデバフの中でも善戦できる希少な場所。杉並木バックの急勾配をえっちらおっちら登るSLが爆煙を噴き上げる様子は圧巻で、逆に軽快に坂を下るDLも比較的良い構図で撮れる。2023年現在のダイヤにおいて、下りは対向の特急が通過して数分後に通過するため被りの心配はないが、上りは通過直後に対向の特急がやって来るため裏被りがやや心配。レンズはいずれも70mm程度。文字通り上今市駅から東武日光方面へ続く直線で、駅から2km圏内のため徒歩でのアクセス自体は難しくない。しかしこの場所の決定的な欠陥として上の2枚のようなアングルを得るにはハスキー5段相当の高さが必要な点がある。ハイアングル用の重装備を担いで駅から歩くには流石にきついので、車でだいや川公園か杉並木公園に駐車するのが最も合理的と思われる。東西に走る線路の北側に構えるため晴れると逆光かつ杉並木の影落ちというダブルコンボなので、煙の出やすい冬場にVを狙うのは意外と難しかったりする。

東武日光駅入線/飛び出し



ふたら運用の定番撮影地となっているのが東武日光駅の手前。下りはカミイマと同じく爆煙を、上りは晴天時の日光連山バックを狙えるが、とにかく抜けが悪い。蛇行する線路を300mmぐらいで圧縮して独特な構図を得られるのは良いのだが、架線柱やらワイヤーが邪魔をして綺麗に抜けるポジションは限られている。作例もアングルキラーのせいでベスポジを確保できず、横にずれて画角に入るワイヤーを前ボケで誤魔化した苦し紛れの1枚である。立ち位置は歩道上で、道路を挟んだ位置に広めの駐車スペースがある。電車でなくても車でなくても易しい場所であるため撮影者が集まりやすいのは仕方ない。先客と障害物をかわすための脚立は必須と考えて良い。なお現在の「ふたら」のスジでは東武日光のエキセンだけが順光なのだが、駅は撮影地にカウントしないのでここでは紹介しません(爆)